

環境アクションレポートの読者アンケート

2016年6月に発行した「2016九州電力環境アクションレポート」の読者アンケートを通じて、九州電力グループの環境活動のあり方などについて、501名の皆さまから貴重なご意見をいただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

2016年度は、「レポートのわかりやすさ」、「環境への取組みの評価」が、ともに2015年度より低い結果となりました。2017年度については、当社がお伝えしたい内容を「特集(P.5~8)」として紹介するとともに、主な取組みをハイライトで紹介するなど、読者の皆さまにより親しみやすくご理解いただけるよう、環境アクションレポートのダイジェストとあわせて発行しています。

《九州電力の取組みについて、ご関心を持たれた項目と、その理由やご意見》

(回答者数=501)

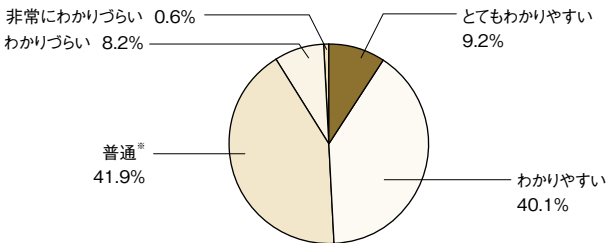
ご回答が多かった項目(上位5項目)	選択数			主な理由・ご意見
	最も関心あり	関心あり	合計	
1 特集1 再生可能エネルギーの最大限の受入れへの取組み 大容量蓄電システム需給バランス改善実証事業	96	56	152	・太陽光を無駄なく活かす設備の導入を今後も拡大し、クリーンエネルギーをミックスした安定供給を願う ・再エネの導入拡大に向けた取組みが進められていることを知り安心した
2 安全の確保を大前提とした原子力発電の活用	71	78	149	・電力の需要を賄うためには、水力では不足すること、火力ではCO ₂ が発生することを踏まえると原子力の活用が必要 ・安全の確保だけでなく、常にもしも想定した活動を求む
3 原子力発電所の放射線管理	59	54	113	・放射線は一番身近な心配の種であり、その管理は廃棄物処理を含め最大の関心事 ・現状で一番の関心事であり、安全に対する無理や過信がなく正直であることを望む
4 特集2 温室効果ガスの削減に向けた取組み 原子力発電の活用による温室効果ガスの削減	46	50	96	・日本の温室効果ガス削減に対する課題認識がなかったため、レポートを読んで九電が努力していることを知った ・CO ₂ は地球規模の懸案であり、エコ発電も原子力に代わる発電量をカバーできる程ではないため、クリーンで安定供給できる電力として原子力のPRが必要
5 お客さまとともに進める省エネ活動	33	58	91	・エアコンなどの消費者目線での省エネ活動の紹介があると嬉しい ・利用者側の意識に個体差があるため、省エネ意識の低い方達の意識改革として、ネット広告・動画や多くの人が集まる場所での普及活動が必要

(注)「最も関心あり」の選択数で順位付け。最も関心ありは1つ、関心ありは4つまで選択可能。

《2016九州電力環境アクションレポート アンケート結果》

レポートのわかりやすさ

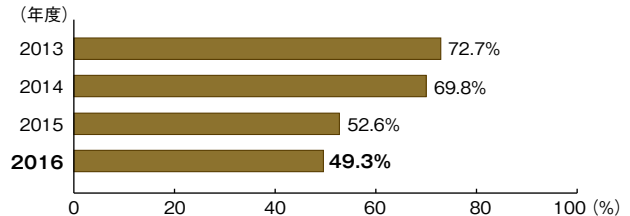
(回答者数=501)



《ご意見の経年変化》

レポートのわかりやすさ

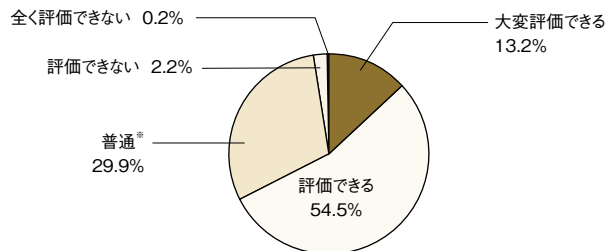
(回答者数=501)



(注)「とてもわかりやすい」、「わかりやすい」の回答割合。

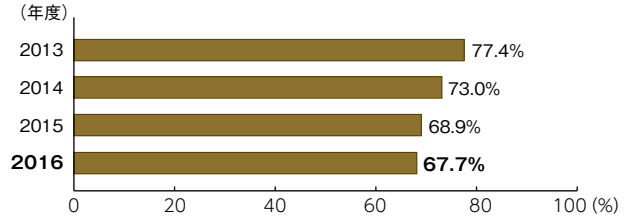
当社の環境への取組みに対する評価

(回答者数=501)



当社の環境への取組みに対する評価

(回答者数=501)



(注)「大変評価できる」、「評価できる」の回答割合。

※: 選択肢を2014年度から一部変更 (「どちらともいえない」→「普通」)。

用語集をご覧ください

- 温室効果ガス
- 放射線
- 再生可能エネルギー